

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

人をつなぎ、知をはぐくみ、未来をひらく

ACCU はアジア太平洋地域の人々と共に学びの輪を広げます

<人をつなげる、未来をつなげる>

◆日本／ユネスコパートナーシップ事業

文部科学省の委託を受け、ユネスコスクール事務局を運営しています。国内のユネスコスクールは、平成 28 年 10 月時点でユネスコ本部へ加盟申請中の学校を含め 1,044 校となっています。ACCU はユネスコスクール事務局として、各校が継続して質の高い活動に取り組めるよう、研修や会議の開催、そして情報発信に努めています。また、ユネスコスクールへの加盟を検討している学校の相談窓口となり、申請の事務手続きのサポートを行っています。ユネスコスクール公式ウェブサイト運営管理のほか、ASPUnivNet (ユネスコスクール支援大学間ネットワーク) の事務局としても、加盟大学によるユネスコスクール加盟申請支援や加盟大学間の連携のための連絡調整を担っています。

ユネスコスクール公式ウェブサイト: <http://www.unesco-school.mext.go.jp/>

○ESD 重点校形成事業～輝け！サステイナブルスクール～を展開中です。

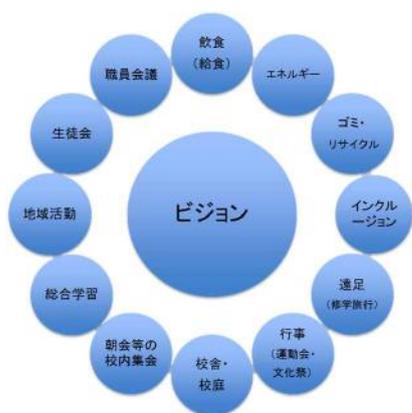
教育現場での更なる ESD の深化に寄与する潜在力を持つ学校を選定し、そのはぐくみを支援するために始まったこの事業は、公募を経て、平成 28 年 9 月に全国から校種も様々な 24 校が「サステイナブルスクール」として認定されました。

同月に校長・担当教員向けの研修会を開催し(平成 28 年 9 月 22 日)、また平成 29 年 1 月には今年度の活動共有会を開催し(平成 29 年 1 月 28 日)、学校全体で ESD に取り組み、学校同士が学び合うことでそれぞれの魅力をより輝かせていくという方向性を共有しました。サステイナブルスクール間の自主的な交流の輪が広がりつつある一方、ACCU の仲介により外部有識者を講師に招いて校内研修会を行うなど、各校の取組はますます活性化しています。

各校の ESD 実践力を高めるとともに、その魅力を地域から世界へと発信できるような学校へ発展することを目指し、今後も支援を継続していきます。

【サステイナブルスクール採択校】(順不同)

気仙沼市立面瀬小学校、気仙沼市立唐桑小学校、登米市立米谷小学校、江東区立八名川小学校、杉並区立西田小学校、目黒区立五本木小学校、横浜市立永田台小学校、新居浜市立惣開小学校、阿南市立桑野小学校、大牟田市立吉野小学校、石巻市立牡鹿中学校、大田区立大森第六中学校、名古屋国際中学校・高等学校、福山市立福山中・高等学校、静岡県立下田高等学校南伊豆分校、広島県立安古市高等学校、愛媛県立新居浜南高等学校、独立行政法人国立高等専門学校機構福島工業高等専門学校、千葉県立桜が丘特別支援学校、愛知県立みあい特別支援学校、NPO 法人東京賢治の学校東京賢治シュタイナー学校、特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園、特定非営利活動法人京田辺シュタイナー学校、NPO 法人箕面こどもの森学園

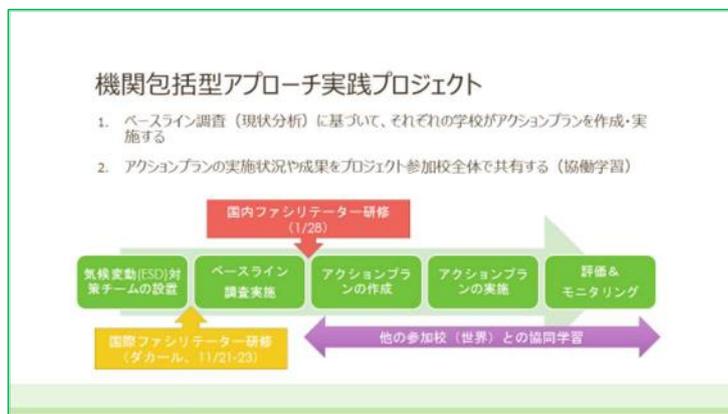


日本を含む4か国からの参加者を得て行った国際ワークショップ

○NEW！気候変動をテーマにホールスクールアプローチを実践します！

ユネスコパリ本部主導によるフラッグシッププロジェクト「ホールスクールアプローチ実践プロジェクト」に参加しています。気候変動への対処をテーマに、サステナブルスクールでもある10校のユネスコスクールが平成28年9月より活動を開始。11月には2名の教員と1名のACCU職員が、セネガル共和国における国際ファシリテーター研修に参加しました。平成29年1月には参加10校を対象とした国内研修を実施し(平成29年1月28日)、以降はいよいよ各学校による取組が始動します。今後、平成30年3月のプロジェクト完了までの期間、プロジェクト参加校間の交流や学習会を通じて、学校レベルで実践可能な気候変動への対処法を模索していきます。

※ACCUはグローバル・アクション・プログラム(GAP)の「機関包括型アプローチ(ESDへの包括的取組)」でユネスコのキーパートナーとなっています。



○「ESD推進の手引」を使った研修を5つの地域で実施しました。

当センターの職員も有識者として作成に携わった「ESD推進の手引」が3月に文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会より発行されました。この手引きを使用し、ESDをより広く周知し拡大していくための研修会を全国で開催しました。

今年度は、この手引を使って、文部科学省、各都道府県、市町村教育委員会や ASPUnivNet の先生方をはじめ、外部有識者を講師としてお招きし、東京(平成28年7月25日)、新潟(平成28年8月1日)、静岡(平成28年10月7日)、北海道道東地区(平成28年11月2日)、福岡(平成29年1月26日)の全国5か所にて教育委員会や学校管理職の方々を主な対象者とした研修会を実施し、延べ235名の方々が参加されました。



研修会はESDをわかりやすく解説すると共に、手引の使用方法も講師の研修を通して実践的に学ぶことができるような構成となっています。また、実施にあたり、申し込み時(事前)、研修終了後(事中)、研修終了後1～3か月後(事後)に参加者にアンケートへの協力をいただき、手引きがどのように現場で使用しているのか追跡調査します。その結果を制作元の文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会へ共有し、手引の再編に貢献していきます。

文部科学省
平成28年度 国際交流員ユニエスコアジア文化センター(ACCU)

北海道「ESD推進のための手引」を活用した研修事業

ESDとは?
Education for Sustainable Development
の略で、「持続可能な開発のための教育
(持続可能な教育)」のことです。
SDGは地球や世界の持続可能な未来の
構築のために学び、アクションを起こして
いく活動です。



開催日時: 2016年11月2日(水)
時間: 10:00-14:30(開場: 9:30)
場所: 羅臼町公民館
〒086-1823 北海道日高郡羅臼町栄町102
電話番号: 0153-87-2004
FAX番号: 0153-87-2810

主催: 文部科学省 公益財団法人ユニエスコアジア文化センター(ACCU)
後援: 北海道教育委員会 羅臼町教育委員会

開催日時: 2016年11月2日(水) 10:00-14:30
開催場所: 羅臼町公民館

参加対象: 新年度研修会及び研修センターでESDに関する研修会を開催していただく
自治体関係者の方、また学校管理職の方(各校のESD推進委員や関係
者)が対象となります。

参加申込: 申し込みフォーム <https://www.unesco-japan.org/ja/2016/11/20161102> からご申し込みください。
申し込み締切は10月31日です。

お問い合わせ: 0153-87-2004

タイムスケジュール(案)

| 時間 | 内容 | 登壇者 |
|-------|---|------------------------------|
| 10:00 | 開会 | ACCU 新宮地位部 部長 藤田孝 |
| 10:10 | 羅臼町 ESD推進の現状 | 羅臼町教育委員会 自治体推進課長 森田 浩二 |
| 10:30 | ESD推進の手引(ESD推進、ESD推進の ESDの活用、ESDの推進) | 羅臼町教育委員会 自治体推進課長 森田 浩二 |
| 11:30 | 昼食 | |
| 12:30 | ESD推進の手引(ESD推進、ESD推進の ESDの活用、ESDの推進) | 羅臼町教育委員会 自治体推進課長 森田 浩二 |
| 14:00 | 閉会 | 文部科学省 国際交流員 センター推進課長 高橋 友 |
| 14:30 | アンケート記入 | |

講師の紹介

石丸 哲史
国際交流員 部長
海外で持続可能な社会づくりの推進を支援し、海外で研究することにも
取り組んでおられるユニエスコの推進者です。

お問い合わせ
国際交流員センター(ACCU)
〒086-1823 北海道日高郡羅臼町栄町102
電話番号: 0153-87-2004
FAX番号: 0153-87-2810

ACCU
UNESCO Asia Cultural Centre
UNESCO Asia Cultural Centre

○海外のユネスコスクールとの交流をサポートします！

ー交流先をつなぎます

「世界中のユネスコスクール・ネットワークを活用し、海外の学校、児童生徒間、教師間の交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと」を身近に、簡単に実践してもらえるように、交流先の斡旋を行っています。ユネスコ加盟国のユネスコスクール事務局担当者にもよびかけ、交流の輪が広がるように、支援しています。今年度はデンマークや韓国、ニュージーランド等の学校とのマッチング支援を行ったほか、教職員の国際交流プログラム(下記参照)でタイの学校から多くの交流希望が寄せられ、国内で交流希望校を募っているところです。

ー国際協働学習プロジェクトが拡大しています！

持続可能な社会をつくる「変化の担い手」となる児童生徒の育成を目指した「ESD Food プロジェクト」、平成28年度はタイ、インド、インドネシアのNGOや政府機関の協力を得て実施しています。日本からの8校(ユネスコスクール加盟校並びに加盟検討校)を含む28校が参加し、「『食』に焦点を当てた持続可能なライフスタイル」をテーマに、問題解決に向けて児童生徒たちが考え、ディスカッションを通じて学びあいを深めています。

平成28年6月にタイで実施したコーディネーター研修を皮切りに各国レベルでの活動を開始し、11月には各国からコーディネーターと参加校教員を招へいし、東京で国際ワークショップを開催しました(平成28年11月19日、20日)。各国の進捗状況を共有し、今年度の活動計画の具体的な日程や目指すゴールを確認したことで、その後のプロジェクトを円滑に進めることができました。

国際協働学習プロジェクトはACCUが平成24年度から運営しているプロジェクトです。昨年度にまとめられた制作物『協働学習プロジェクトをはじめようーESD Food プロジェクトの実践から』(日英併記)は、教育現場での学びの輪が広がるきっかけづくりの参考書として、協働学習に関心のある方々に配布し、活用いただきました。



○ユネスコスクール全国ネットワーク強化に向けて

平成 26 年 11 月に採択された ESD 推進のためのユネスコスクール宣言(ユネスコスクール岡山宣言)を受け、昨年度からユネスコスクール全国ネットワーク実現のために、加盟校教員を中心に協議を進めています。全国ネットワーク強化のために、各地域での現状を共有し、更なる強化のために何をすべきかを話し合う会議を行いました(平成 28 年 11 月 19 日、20 日)。

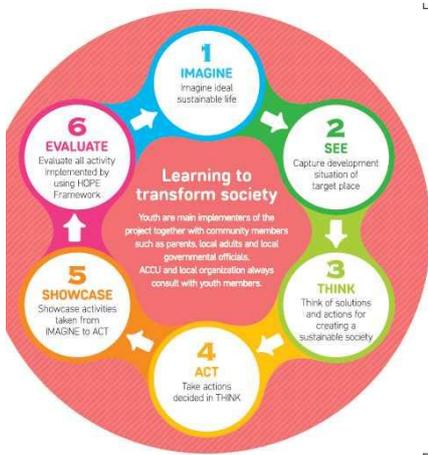
◆若者主体の持続可能なコミュニティ開発プロジェクト

南アジア地域の若者(15～35 歳)がみずから持続可能なコミュニティ開発を遂げるよう、ESD を通して支援を行う本プロジェクトの目的は、第1に、若者の主体的な学びを通して持続可能なコミュニティを創造する「変化の担い手」を育成すること。第2に、「変化の担い手」が地域の持続可能な開発に向けて具体的な活動を起こすことです。本事業は平成 26 年度から始まり、今年度で3年目を迎えます。

1年目から協働しているパキスタン(Sanjh Preet Organization)、2年目から協働しているバングラデシュ(BRAC)に加えて、平成 28 年度は、対象国をインド、フィリピン、インドネシアへも広げ、地域で活動する元気な NGO(フィリピン(PILCD)、インド(CEE)、インドネシア(XL Future Leaders Program))が実践者として参画しています。ユネスコバンコク事務所の協力も得て、5月にはタイ・バンコクにて国際ワークショップを開催しました。また新たな試みとして、未来学(future studies)という学問分野の専門家を招き、未来学の視点から本事業を捉え、評価し、事業の質的向上につなげました。10月には東京で本年度2度目の国際ワークショップを開催し(平成 28 年 10 月 12 日～14 日)、5月以降の各団体の実践が共有された後、プロジェクトのこれまでの実践や各団体での知見を踏まえたファシリテーター用ガイド「学習の6ステップ」作成へ向けての具体的な話し合いが行われました。来年度は世界の若者のエンパワーのため、この実践を世界中へ広げていくフェーズによいよ突入していきます。



サステナブルスクールであり、ユネスコスクール加盟校でもある目黒区立五本木小学校を訪問する各国の専門家



4

「学習の6ステップ」

◆ESD 活動支援センター

文部科学省と環境省の共同提案により平成 28 年4月に開設された ESD 活動支援センターの運営等事業に特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)」と業務提携により参画しました。

ウェブサイトネットワーク形成等の事業を行うほか、「ESD推進ネットワーク全国フォーラム 2016 ESD 第2ステージ:未来をつくる学びの俯瞰図」(平成 28 年 11 月 26 日@国立オリンピック記念青少年総合センター国際会議室)、「ユネスコ/日本 ESD 賞受賞海外5団体と語る国際フォーラム」(平成 29 年1月 24 日@聖心女子大学)を開催し、第2ステージの ESD をさらに深化させる機会を持ちました。

◆教職員の国際交流

国際連合大学の委託により、以下のプログラムを実施しました。

○タイ教職員招へいプログラム(平成 28 年 10 月 4 日～10 日)を実施しました。

今回で2回目の実施となる本プログラムでは、7日間に渡り、タイから初等中等教職員15名を招へいしました。訪問団は、日本の教育に関する講義を受けたほか、教科書に関する機関や、東京近郊の中学校・高等学校3校を訪問し、日本の生徒にタイダンスを教える文化授業など行いました。プログラムの終盤の「日タイ教育交流会」では、テーマ別で日本教職員と教育に両国の教育について意見を交換し、相互理解を深めました。

写真: 多摩市立東愛宕中学校でタイダンスを生徒に教える訪問団



○NEW！インド教職員招へいプログラム(平成 28 年 11 月 6 日～13 日)を実施しました。

今回が初の実施となる本プログラムでは、インドから初等中等教職員 14 名を招へいしました。訪問団は8日間のプログラムを通し、日本の教育に関する講義を受けたほか、東京近郊の学校4校を訪問しました。プログラムの最後には「日印教育交流会議」を開催し、公募で集まった日本の教職員 14 名と、教育をテーマに意見を交わしたほか、食事や街歩きを通して相互に交流を深めました。

写真: 荒川区立尾久宮前小学校で、訪問団全員の母語で歓迎の意を表す看板を囲む訪問団



○中国教職員招へいプログラム(第1班:平成 28 年 11 月 7 日～13 日、第2班:平成 28 年 11 月 28 日～12 月 4 日)を2回に分けて、実施しました。

本プログラムでは、中国から各班 20 名、両班合せて 40 名の初等中等教職員を招へいし、それぞれ7日間に渡り、第1班は、東京都及び高知県、第2班は、東京都、奈良県奈良市及び京都府を訪問しました。訪問団は学校訪問を通して、日本の教職員や児童生徒と交流し、大変有意義な時間を過ごしました。右の写真は、第2班が訪問した奈良市立富雄第三小中学校で、中国教職員が同校の6年生の児童に授業をする様子です。「中国の小学生生活」と題して、中国の小学校6年生の学校生活が紹介されました。



○韓国教職員招へいプログラム(平成 29 年1月 17 日～23 日)が実施されました



17 回目となる本プログラムでは、7日間に渡り、韓国の初等中等教職員 118 名を招へいしました。東京にてオリエンテーション、日本の教育についての講義を受けたのち、3つのグループに分かれて、東京近郊の学校をそれぞれ1校訪問、そして、東京都狛江市(Aグループ)・千葉県八千代市(Bグループ)・千葉県(Cグループ)を訪問しました。各自治体では教育委員会の表敬訪問、学校訪問を通して各自治体の特色ある教育、実践例に触れただけでなく、文化施設や一般家庭を訪問するホームビジットを通して、日本文化に対する理解を深めました。成田市で行われた報告会ではそれぞれのグループが今回の訪日を通して学んだことを存分に発表したほか、参加者のプログラム後の活動が活発になるよう、このプログラムを通して日韓交流に取り組む先生方からの事例発表も行いました。

写真: 千葉県での歓迎交流会で、韓国の伝統音楽と扇の舞を披露する訪問団

◆NEW! 高校生のための国際交流

科学技術振興機構(JST)の支援を受け、日本・アジア青少年サイエンス交流事業さくらサイエンスプランの一環として、タイから高校生 14 名、引率教職員1名の 15 名を招へいし、科学技術に焦点を当てた交流事業を実施しました(平成 29 年2月7日～13日)。プログラム期間中に日本の高校生との交流会を実施し、「身の回りの“困った”をテクノロジーで解決しよう」というテーマのもとディスカッションを行いました。

◆模擬国連推進事業

支援企業からのご寄附を得て、次世代の国際人／グローバルなリーダーを育成することを目的にグローバル・クラスルーム日本委員会と協力し、高校模擬国連事業を実施しています。

このプログラムは英語によるプレゼンテーション能力はもとより、交渉を通じてより良い解決策をさぐるなど課題に対する総合的な処理能力を鍛えること、同世代の交流を通じてコミュニケーション力を高めることを通じてグローバルな社会を担う未来のリーダーを育てることを目的としています。



一次予選を突破した 86 チームの高校生が第 10 回全日本高校模擬国連大会に集い、「サイバー空間」をテーマに担当国大使として活発で熱心な発表と討議を行いました(平成 28 年 11 月 12 日・13 日、会場: 国際連合大学ウ・タント会議場、エリザベス・ローズ会議場)。

厳正な審査の結果受賞校8校を選出し、そのうち最優秀賞、優秀賞を受賞した6校を平成 29 年5月にニューヨークで開催される国際大会に派遣します。

【最優秀賞】

会議 A: 渋谷教育学園幕張高等学校 A チーム (オランダ大使)

会議 B: 灘高等学校 A チーム (ベラルーシ大使)

【優秀賞】

会議 A: 桐蔭学園中等教育学校 B チーム (ブラジル大使)、開成高等学校 B チーム (カナダ大使)

会議 B: 浅野高等学校 (ポーランド大使)、渋谷教育学園渋谷高等学校 A チーム (韓国大使)

【ベストポジションペーパー賞】

会議 A: 桐光学園高等学校 (フランス大使)

会議 B: 中央大学附属高等学校 (ロシア大使)

また、平成 29 年度は、11 月の全日本大会にも多くの高校生を送り出している高校の先生達で構成される全国中高教育模擬国連研究会(全模研)と共に新しい模擬国連大会の開催を企画し、準備を進めています。「高校生の高校生による高校生のための大会」と銘打つ新大会では、実行委員も全国の高校生に募集をかけ、平成 29 年2月から本格的に実行委員会が始動しています。新大会は、一人でも多くの高校生に模擬国連を体験してもらうことを大きな目的としているため、書類選考は設けず、希望する人は誰でも参加できる大会となっています。より練習を重ねたい高校生はもちろん、初心者の高校生の参加も大いに期待されています。この大会が全ての参加者にとって模擬国連の醍醐味を味わえる場となるよう、ACCU も事務局運営に努めます。

＜すべての人に教育を、すべての人に笑顔を＞

◆母子保健をテーマにした識字教育支援プロジェクト



SMILE Asia プロジェクトは ACCU がアジアで推進する母子保健をテーマにした識字教育支援プロジェクトです。これまでにアジアの7か国で展開し、現在はカンボジアで実施しています。女性の関心の高い母子保健をテーマにし、家庭でも子供と一緒に活用できる教材を提供することで、クラスを卒業した後も日常生活で、識字能力を使い続ける環境を現地の団体と一緒に作っています。

平成 28 年度はプノンペン市より 45kmほど離れた場所に位置するコンボンスプー州の5つの村において、75 名の成人学習者(うち 74 名が女性)を対象に活動を実施。現地をモニタリング訪問したり、参加者からプロジェクトに関するヒアリングをしたりするなどし、現地のニーズをより把握できるよう努めました。

このプロジェクトはチャリティーコンサートを開催して支援くださる凸版印刷株式会社はじめ、皆さまからの御寄附により行っています。

| | |
|------|------------------------|
| 口座名 | ACCU アジアの女性識字振興募金 |
| 口座番号 | 00120-7-365298(ゆうちょ銀行) |

◆アフガニスタン国識字教育強化プロジェクト

JICA(独立行政法人国際協力機構)が実施している「アフガニスタン国識字教育強化プロジェクトフェーズ2」に職員を派遣し、アフガニスタン教育省識字局とともに、同国識字局のモニタリング・技術支援能力の強化に関わる活動を行っています。治安状況の問題により、アフガニスタンへの日本人の渡航が難しいため、7月～8月にかけてインドへ日本人職員を派遣し、アフガニスタンから招へいた識字局職員と会合を持ち、制定したモニタリング・評価制度の機能状況を確認し、今後の活動計画を策定しました。



<共にひきつぐ、文化と伝統>

奈良にある文化遺産保護協力事務所(ACCU 奈良事務所)では、ユネスコや ICCROM(文化財保存修復研究国際センター)など国際機関と連携して、専門家育成のための研修、文化遺産保護に関する情報発信などを行っています。

◆文化財保存復習の担う人材育成のための各種研修



集団研修(8～9月)、ワークショップ(10月)、個別テーマ研修(11～12月)、国際会議(12月)を実施し、特に海外の文化遺産にかかる専門家の育成に務めました。

* 文化庁からの委託により本事業を実施

◆文化遺産保護の大切さを広報する国際シンポジウム

「シリア内戦と文化遺産」をテーマに国際シンポジウムを開催しました。内戦とIS国(自称「イスラム国」)



により、世界遺産パルミラ遺跡をはじめ、シリア国内の文化遺産が甚大な被害を受けています。平成28年3月のIS撤退直後に現地入りをした、パルミラ遺跡の調査研究や保護に長らく携わっている専門家から、映像とともに惨憺たる現状を学び、会場参加者とともに、改めて文化遺産の保存及び活用大切さについて理解を深めました。参加者からは将来シリアの文化遺産保護を担う若者たちの人材養成に、日本の支援を期待する声などが寄せられました。

* 文化庁からの委託と奈良県からの補助により本事業を実施

* 写真提供:Dr.Robert Zukowski(ポーランド科学アカデミー歴史文化遺産研究所)

◆文化遺産保護の大切さを広報する世界遺産教室

世界遺産を通じ、文化遺産保護の重要性を楽しく学んでもらうことをめざして平成 17 年度から毎年、奈良県内の高校で日本や諸外国の世界遺産を題材に「世界遺産教室」を開催しています。平成 28 年度は4月～11月に、県内の 10 校で開催しました。また、同年から、各校で教鞭を執る先生方の教室を新たに始めました。

*奈良県からの補助により本事業を実施

なお、過去の研修参加者に、自国の文化財保護活動について報告を依頼し、毎年「ACCU Nara International Correspondent Regular Report」を刊行しています。また、奈良事務所の年間の取組は、「文化遺産ニュース」にまとめています。ともに平成 28 年度版は3月刊行の予定で、ウェブサイトからのダウンロードも可能です。

<ACCU 広報活動>

◆パンフレット、機関紙 ACCU ニュース、ウェブサイト、Facebook を活用して、ACCU の活動内容、最新情報を伝えています。10 月に発行された ACCU news では、400 号特別企画とし、ページ数を増やし、ACCU 現在の活動を詳細に紹介しました。2月に発行された 401 号では海外の学校、団体と協働している ESD に関するプロジェクトを特集しました。ACCU ニュースはウェブサイトからのダウンロードも可能です。



【ウェブサイト】 <http://www.accu.or.jp>

【Facebook】 <http://www.facebook.com/accu.or.jp>

【奈良事務所ウェブサイト】 <http://www.nara.accu.or.jp/>

◆NEW！新しい寄附制度スタート！

誰でも学びの機会が与えられる社会を皆様と一緒に・・・

家に眠る「本」や「価値ある不用品」を通した寄附制度を新しく始めました（平成28年9月～）。みなさまに送っていただいた読まなくなった本や、不用品は社会貢献に関心の高い買取業者によって引き取られ、査定額が当センターの寄附になる仕組みです。

チラシや封筒を作成し、より多くの方々に協力を呼びかけています。

<東日本大震災募金活動>

ACCUは東日本大震災被災地の教育復興の支援として、ACCUウェブサイト、ユネスコスクール公式ウェブサイトで協力をよびかけ募金を行っています。この募金は全額被災地の教育復興のために使っています。特に福島において、いまだ復興には支援が必要ということで、引き続き募金の継続を呼びかけ、長期的な支援を目指します。

◆東日本大震災ユネスコスクール ESD 支援募金

| | |
|--------------------------|-----------------------|
| 三菱東京 UFJ 銀行 | ゆうちょ銀行 |
| 支店名:神楽坂支店(店番号:052) | 口座記号番号:00120-1-718642 |
| 口座番号:0057529 預金名:普通預金 | 口座名:公益財団法人ユネスコ・アジア文化 |
| 口座名:公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター | センター |

日本ユネスコ国内委員会に関する参考資料

国際会議等一覧

| 会議等名称 | 開催日程 (開催地) | 主な内容 | 我が国出席者 |
|-------------------------------|-----------------------------|--|---|
| 第2回 GAP パートナーネットワーク会合 | 28.7.5-6 (フランス・パリ) | ユネスコ本部が指定する「GAP キーパートナー」が一堂に会し、2017年3月にカナダ・オタワで開催予定の「GAP レビューフォーラム」に向けて、GAP パートナーネットワークごとに今後の連携方策等について議論を行った。 | 文部科学省担当官 ほか |
| ユネスコ世界ジオパーク評議員会 (UGGpC) | 28.9.24-25 (イギリス・リヴァプール) | ユネスコ世界ジオパークの新規申請・再認定地域の審査を行った。 | 渡辺真人産業技術総合研究所地質情報研究部門(ユネスコ世界ジオパーク評議員) |
| 第200回ユネスコ執行委員会 | 28.10.4-18 (フランス・パリ) | ユネスコの次期事業・予算(39C/5)案に関する事務局長による予備提案について審議が行われた他、MAB 戦略及び関連のリマ MAB 行動計画の実施に関する進捗報告や教育アジェンダ 2030 の実施に関する議論が行われた。 | 佐藤地ユネスコ日本政府代表部特命全権大使、下川眞樹太外務省国際文化交流審議官、福田和樹文部科学省国際統括官付国際戦略企画官 |
| 第2回アジア太平洋地域教育 2030 会合 | 28.11.16-18 (タイ・バンコク) | SDGs の教育に関する目標達成のため、2015年11月にユネスコを中心とする国連機関及び各加盟国で採択された「教育 2030 行動枠組」の、アジア太平洋地域における実施方策について議論を行った。 | 吉田和浩広島大学教授、文部科学省担当官 |
| 第2回 SDG-教育 2030 ステアリング・コミッティー | 28.12.8-9 (フランス・パリ) | 持続可能な開発目標(SDGs)における教育分野に関する推進方策について、議論を行った。 | 吉田和浩広島大学教授、文部科学省担当官 |

ユネスコ関係者来日一覧

| 年月日 | 来訪者 | 内容 |
|-------------|--|---|
| 28.7.27-28 | パトリック・マッキーバー(Patrick McKeever) ユネスコ地球科学減災課長 | ジオパーク新潟国際フォーラムへの出席 |
| 28.9.2 | アナンサ・ドライアッパ (Anatha Duraiappah)ユネスコ・マハトマ・ガンジー平和と持続可能な開発研究所所長 | 山協ユネスコ国内委員会事務総長を表敬訪問し、今後の協力について意見交換を行った。 |
| 28.10.20 | フランシスコ・ミグエンス・カンポスアルゼンチン(Francisco Miguens Campos)教育・スポーツ省国際協力局長(兼)ユネスコ国内委員会事務総長 | 森本ユネスコ国内委員会事務総長を表敬訪問し、今後の協力について意見交換を行った。 |
| 28.10.22-28 | フラヴィア・シュレーゲル(Flavir Schlegel)事務局長補(科学担当) | <ul style="list-style-type: none"> ・アジアのユネスコエコパーク現地実務者対象現地研修会「地域の人々のユネスコエコパークへの参画」への参加(白山ユネスコエコパーク主催、文部科学省平成28年度政府開発援助ユネスコ活動費補助金を使用) ・第1回アジア生物文化多様性国際会議出席 |
| 28.11.11 | スー・ヒャン・チョイ (Soo Hyang Choi) ユネスコ教育局包摂・平和・持続可能な開発担当部長 | ユネスコー日本ESD関係者との非公式意見交換出席等 |
| 28.11.11 | アレキサンダー・ライヒト (Alexander Leicht)包摂・平和・持続可能な開発担当部持続可能な開発のための教育及びグローバルシチズンシップ教育担当課長 | ユネスコー日本ESD関係者との非公式意見交換出席等 |
| 28.12.10-12 | シャバス・カーン(Shahbaz Khan)ジャカルタ事務所長 | 「アジア太平洋地域におけるジオパークネットワーク活性化に向けたキャパシティ・ディベロプメント支援」プロジェクト(2016)への出席(日本ジオパークネットワーク(JGN)主催、文部科学省平成28年度政府開発援助ユネスコ活動費補助金を使用) |
| 29.2.8 | クリストフ・ヴォルフ(Christoph Wulf)ドイツユネスコ国内委員会副会長 | 森本ユネスコ国内委員会事務総長を表敬訪問し、今後の協力について意見交換を行った。 |

国内委員会会議

| 年月日 | 会 議 | 主 な 内 容 |
|----------|--------------------------------|--|
| 28.8.12 | 第 36 回 MAB 計画分科会 | ・平成28年ユネスコエコパーク申請について |
| 28.12.22 | 第 37 回 MAB 計画分科会 | ・第 200 回執行委員会結果について ・平成 29 年ユネスコエコパーク申請地域について |
| 29.2.13 | 第 134 回教育・第 98 回普 及活動合同小委員会 | ・ESD の推進について ・ユネスコスクールについて |

国内委員会委員人事

| 発令日 | 氏 名 | 所 属 ・ 職 名 |
|------------------|---|--|
| (新任) 28.10.18 | 青山 周平 大西 英男 | 衆議院議員 衆議院議員 |
| 28.10.19 | 福岡 資麿 | 参議院議員 |
| 28.12.1 | 翁 百合 小長谷 有紀 小林 栄三 杉村 美紀 野村 浩子 羽田 正 平松 直巳 日比谷 潤子 細谷 龍平 松代 隆子 山田 卓郎 杉山 晋輔 佐藤 慎一 前川 喜平 森本 浩一 | 株式会社日本総合研究所副理事長 大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事 伊藤忠商事株式会社社長 上智大学学術交流担当副学長・総合人間科学部教育学 科教授 ジャーナリスト、淑徳大学人文学部表現学科長・教授 東京大学理事・副学長、東洋文化研究所教授 全国都道府県教育長協議会理事、愛知県教育委員会教 育長 国際基督教大学長 福井大学国際地域学部教授 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟監事 白石ユネスコ協会副会長 外務事務次官 財務事務次官 文部科学次官 文部科学省国際統括官 |

| | | |
|--|--|--|
| (再任) 28.12.1 | 安達 仁美 安西 祐一郎 井手 明子 宇佐美 誠 及川 幸彦 黒田 玲子 島谷 弘幸 早川 信夫 | 長野ユネスコ協会理事、信州大学教育学部准教授 独立行政法人日本学術振興会理事長 日本電信電話株式会社常勤監査役 京都大学大学院地球環境学堂教授 気仙沼ユネスコ協会理事、東京大学海洋アライアンス海 洋教育促進研究センター主幹研究員 東京理科大学研究推進機構総合研究院教授 九州国立博物館長 日本放送協会解説委員 |
| (退任) 28.7.25 28.9.26 28.10.24 28.11.30 | 北川 イッセイ 丹羽 秀樹 松野 博一 内永 ゆか子 内山田 竹志 榎田 好一 川井 郁子 黒田 一雄 重 政子 二瓶 和敏 野村 道朗 林 梓 観山 正見 | 参議院議員 衆議院議員 衆議院議員 特定非営利活動法人 J-Win 理事長、株式会社 GRI 代表 取締役社長 トヨタ自動車株式会社取締役会長 広島工業大学監事、前広島県教育委員会委員長 ヴァイオリニスト、大阪芸術大学教授 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授 特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推 進会議代表理事 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事、弁護士 前愛知県教育委員会教育長 元ユネスコ日本政府代表部大使 広島大学学長室特任教授、神戸大学理学研究科附属惑 星科学研究センター長・特命教授 |

国内委員会事務局人事異動

| 発令日 | 氏名 | 異動後所属・職名 | 異動前所属・職名 |
|--------|-------|------------------------|------------------------------------|
| 28.9.1 | 野田 昭彦 | 文化庁長官官房国際課海賊版 対策専門官 | 文部科学省国際統括官付 国際統括官補佐 |
| 28.9.1 | 鈴木 規子 | 文部科学省国際統括官付国際 統括官補佐 | 文部科学省高等教育局高 等教育企画課国際企画室 室長補佐 |

| | | | |
|--------|-------|------------------------------------|----------------------|
| 29.2.1 | 福田 和樹 | 文部科学省生涯学習政策局政策課専門官(併) 高等教育局高等教育企画課 | 文部科学省国際統括官付国際戦略企画官 |
| 29.2.1 | 小林 洋介 | 文部科学省国際統括官付国際戦略企画官 | 文部科学省大臣官房国際課国際戦略企画室長 |

●本年度・来年度の委託事業及び補助事業

日本/ユネスコパートナーシップ事業

文部科学省では、ユネスコの理念及び目的の実現に向けて、日本ユネスコ国内委員会で重視している事業を国内のユネスコ活動に関係のある機関及び民間団体等へ委託し、広く国民のユネスコ活動への参加の促進、更にはユネスコ活動の普及と理解の促進を図るため、日本/ユネスコパートナーシップ事業を実施しています。〔平成 29 年度予算案:87 百万〕

【平成 29 年度の事業テーマ】

E S D（持続可能な開発のための教育）やジオパーク事業の推進等を通じたユネスコ活動のより効果的な普及・促進

【委託事業の内容】

(1) ユネスコスクール等支援事業

①ユネスコスクール事務局運営

- ユネスコスクール加盟申請前の申請方法等に関する相談対応
- ユネスコスクール申請に係る技術的チェック（内容確認、誤字脱字等）
- ユネスコスクール申請後及び加盟後の活動にかかる支援
 - ・国内外のユネスコスクールの活動内容などの情報提供
- ユネスコスクール間の交流促進のための活動支援
 - ・マッチングサイトの充実・紹介・誘導
- グットプラクティスの収集
- E S Dの普及促進活動
 - ・ユネスコスクール以外の学校にE S Dを広めるための活動

②ユネスコスクールホームページ運営管理

- 日英ホームページの情報のアップデート、グットプラクティスの発信
- ユネスコ本部が導入したOnline Tool for ASPnet(OTA)との連携 等
- ※Online Tool for ASPnet(OTA)・・・ユネスコ本部が構築したユネスコスクールオンラインツールシステム（以下リンク参照）

<https://aspnet.unesco.org/en-us/Pages/Default.aspx>

③E S D重点校形成事業

- 高い実践力でE S Dに取り組む学校（24校）が、周辺の学校と共に行うE S Dに関する活動（講師派遣、教員研修、交流事業等）に対する支援
- ユネスコ本部が実施するユネスコスクール気候変動プロジェクト（以下リンク先参照）

との連携

<https://aspnet.unesco.org/en-us/climate-education-education>

- 重点校の活動について、各重点校との本パートナーシップ事業再委託にかかる事務処理・調整

④学校現場におけるESDの実践を高めるための研修の実施

- 教育委員会等との連携のもと、ユネスコスクールを含む学校現場でESDに取り組み、実践的能力を育成するための研修の実施

⑤ASPUnivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）※事務局運営

- ASPUnivNet 連絡会議、運営委員会開催（【年2回程度】）

- ASPUnivNet パンフレットの作成

- ASPUnivNet 加盟各大学との本パートナーシップ事業再委託にかかる事務処理・調整

※ASPUnivNet…ユネスコスクールのパートナーとしてユネスコスクールの申請及び活動を支援するための大学間ネットワーク

⑥ASPUnivNet 加盟各大学の事業

- ASPUnivNet 加盟大学を通じたESD推進拠点としてのユネスコスクール支援

- ・ユネスコスクール申請前、申請内容（活動内容等）についての相談、申請後から加盟前までの期間の活動等についての助言、ユネスコスクール加盟後の活動にかかる以下の支援
 - ユネスコスクール加盟申請校や加盟校への活動助言のための専門家派遣
 - ユネスコスクール加盟申請校や加盟校の教員を対象としたユネスコスクールの活動内容に関する研修の開催

(2) ユネスコスクール関係者の全国規模での意見交換、情報共有に関する事業

- 全国のユネスコスクール関係者が一堂に会し、グッドプラクティスを共有し、ユネスコスクールの課題等についての意見交換を行う事業を開催する。ユネスコスクール岡山宣言を含むESDに関するユネスコ世界会議のフォローアップ、ESDに関するグローバル・アクション・プログラム、持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえた取組や成果、評価についても共有を図る。

(3) ユース世代の意見交換、情報共有に関する事業及びユース世代の意見交換のためのプラットフォーム構築事業

①ユース世代の意見交換、情報共有に関する事業の開催

ユース世代が一堂に会して、ESDをテーマに議論するフォーラム等を開催する。

②ユース世代の意見交換のためのプラットフォームの活用

ユース世代が継続的に交流を行うことのできるSNSを利用したプラットフォームを活用し、ユースがより活発な意見交換や情報発信できる機会を確保する。

(4) 日本国内でのユネスコ世界ジオパーク事業に関するネットワーク構築事業

- ①我が国におけるジオパーク・ナショナル・コミッティの運營業務（ユネスコへの新規推薦に係る業務（推薦地域の募集方法検討、審査業務、推薦地域選定等）、再認定審査に係る業

務、選考基準策定、ユネスコとの連絡調整、その他本業務を実施するために必要な調査等)

※ユネスコ世界ジオパーク事業…地層、岩石、地形、火山、断層など、地質学的な遺産を保護し、研究に活用するとともに、自然と人間とのかかわりを理解する場所として整備し、科学教育や防災教育の場とするほか、新たな観光資源として地域の振興に生かすことを目的としたユネスコの事業。なお、我が国においては、「日本ジオパーク委員会(JGC)」が、日本ユネスコ国内委員会からジオパーク・ナショナル・コミッティとして認証され審査権限を付与されている。

②ジオパークを活用した教育プログラムの実施

【公募期間】

平成 29 年 1 月 20 日～2 月 16 日

(スケジュール)

| | |
|----------------------|-------------------|
| 平成 29 年 1 月 20 日 | 公募開始 |
| 2 月 16 日 | 公募締切 |
| 3 月 9 日 | 審査委員会の開催 |
| 3 月中旬 | 採択結果通知及び事業計画書提出依頼 |
| 3 月下旬～4 月上旬 | 事業計画書精査 |
| 4 月上旬～下旬 | 契約書の取り交わし |
| 4 月～平成 30 年 3 月 17 日 | 補助事業実施 |

【参考：平成 28 年度実施事業】(委託総額：75 百万円)

(事業テーマ)

ESD (持続可能な開発のための教育) やジオパーク事業等の推進を通じたユネスコ活動のより効果的な普及・促進

- ユネスコスクール事務局運営及び ASPUnivNet 事務局運営 (公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU))
- 第 8 回ユネスコスクール全国大会—持続可能な開発のための教育 (ESD) 研究大会 (特定非営利活動法人日本持続発展教育推進フォーラム)
- 第 3 回 ESD 日本ユース・コンファレンスの開催並びにユース世代のプラットフォーム構築推進 (公益財団法人五井平和財団)
- 「ESD 推進の手引」を活用した研修事業 (公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU))
- ユネスコ世界ジオパーク登録審査事業 (特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク)

ユネスコ活動費補助金(グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業)

文部科学省では、平成 26 年度から、教育委員会及び大学等が中心となり、ESD の推進拠点であるユネスコスクールと共にコンソーシアムを形成し、地域において ESD を実践することにより、ユネスコスクール以外への ESD の普及を図り、また、国内外のユネスコスクール間の交流の促進を通じ、国際的視野を持つグローバルな人材の裾野を広げることを目的として、本事業を実施しています。〔平成 29 年度予算案：55 百万円〕

【公募期間】

平成 29 年 1 月 11 日～2 月 6 日

(スケジュール)

| | |
|------------------|-----------------------|
| 平成 29 年 1 月 11 日 | 応募開始 |
| 2 月 6 日 | 応募書類の提出締切 |
| 3 月 13 日 | 審査委員会の開催 |
| 3 月中旬 | 採択結果通知及び補助金交付申請書提出依頼 |
| 3 月下旬 | 補助金交付申請書提出 補助金交付審査 |

4 月 補助金交付決定及び通知

交付決定日～平成 30 年 2 月 28 日までの指定する日

平成 29 年度補助事業実施

【参考：平成 28 年度実施事業】(委託総額：60 百万円)

- 東北の自然環境と防災及び国際連携をコアとしたグローバル人材の育成と ESD 地域モデルの創出 (国立大学法人宮城教育大学)
- 北陸における知の拠点形成による ESD 推進事業 (国立大学法人金沢大学)
- 三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム (国立大学法人三重大学)
- グローバル人材育成を見据えた ESD コンソーシアムの構築とユネスコスクール間交流による ESD の推進—国際 (Think global) と国内 (Act local) の融合— (国立大学法人奈良教育大学)
- グローバル人材の育成に向けた ESD の推進事業) 福岡県大牟田市教育委員会)
- グローバル人材の育成に向けた地域と協働した岡山型 ESD 推進事業 (岡山市教育委員会)
- 人間力を育む千葉 ESD の地域展開 (国立大学法人千葉大学)
- 各校種と地域の連携による ESD 推進のためのコンソーシアム事業 (中部大学)
- 四国におけるグローバル人材の育成に向けた ESD 地域モデル推進事業 (愛媛県新居浜市教育委員会)
- 横浜市 ESD 推進コンソーシアム (横浜市教育委員会)
- 信州の環境と知に根ざした ESD コンソーシアムの形成 (国立大学法人信州大学)
- ESD・国際化 ふじのくにコンソーシアム (ESD・国際化活動を推進・支援するふじのくにコンソーシアム) (国立大学法人静岡大学)
- グローバル人材を育成する教員を研修・養成するための ESD コンソーシアム (国立大学法人広島大学)

政府開発援助ユネスコ活動費補助金

文部科学省では、民間ユネスコ活動への助成を通じて、我が国のユネスコ活動の進展並びにユネスコを通じた交流の促進に寄与することを目的として、民間のユネスコ活動の振興に資する事業を行う団体に対して、「政府開発援助ユネスコ活動費補助金」(アジア・太平洋地域等における開発途上国の教育、科学又は文化の普及・発展のための交流・協力事業)による補助を行っています。

[平成 29 年度予算案:30 百万円]

【平成 29 年度公募期間】

平成 29 年 1 月 10 日～2 月 24 日

【平成 29 年度公募期間】

平成 29 年 2 月 24 日(金曜日) 応募書類の提出締切

| | |
|------------------|-----------------------|
| 3 月上旬 | 審査委員会の開催 |
| 3 月下旬 | 採択結果通知及び補助金交付申請書提出依頼 |
| 4 月 | 補助金交付申請書提出 補助金交付審査 |
| 4 月～5 月 | 補助金交付決定及び通知 |
| 交付決定日～平成29年2月28日 | 補助事業実施 |

【参考:平成 28 年度実施実績】(補助総額: 30 百万円)

・事業規模: 30 百万円

・実施件数: 5 件

- アセアンにおける教育の質改善に貢献し得る教員政策現状分析、及び効率的な教員配置戦略の提言(神戸大学)
- アジア太平洋地域におけるジオパークネットワーク活性化に向けたキャパシティ・ディベロプメント支援(特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク)
- 若者主体の持続可能なコミュニティ開発プロジェクト 2014-2017(フェーズ II)(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU))
- ユネスコ人間と生物圏(MAB)計画における実務者交流を促進するアジア型研修プラットフォームの創出事業(白山ユネスコエコパーク協議会)
- アジア太平洋地域における無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する基礎的調査研究(独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター)

日本ユネスコ国内委員会後援名義一覧

| 事業名 | 主催団体名 | 後援期間 (事業実施期間) |
|--------------------------------------|---------------------------------|---|
| 第7回ESD大賞 | 特定非営利活動法人日本持続発展教育推進フォーラム | 28.7.8～28.12.3 (28.7.8～28.12.3) |
| 第18回CHUO国際教育フォーラム | 盛岡中央高等学校 | 28.8.3～28.8.29 (28.8.22～28.8.29) |
| 第103回日本エスペラント大会 | 一般財団法人日本エスペラント協会 | 28.8.19～28.10.10 (28.10.8～28.10.10) |
| 第50回北海道ユネスコ大会、2016年度北海道ブロックユネスコ活動研究会 | 北海道ユネスコ連絡協議会 | 28.8.3～28.10.9 (28.10.8.～28.10.9) |
| 無形文化遺産国際シンポジウム「技と心を受け継ぐ」 | 独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター | 28.8.19～28.11.19 (28.11.19) |
| 平成28年度愛知県ユネスコスクール交流会 | 愛知県教育委員会 | 28.9.16～28.10.29 (28.10.29) |
| 第5回ユネスコスクールESDパワーアップ交流会 | 江東区立八名川小学校 | 28.9.16～29.1.28 (29.1.28) |
| 全国高校生マイプロジェクトアワード | 認定特定非営利活動法人カタリバ | 28.11.7～29.3.26 (29.2.11～29.3.26) |
| 第5回宮崎ジャズデイ | 宮崎国際ジャズデイ実行委員会 | 28.11.22～29.4.30 (29.4.30) |
| ユネスコ協会ESDパスポート | 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 | 28.12.9～29.3.31 (28.4.1～29.3.31) |
| 2016年度(第8期)ユネスコスクールESDアシストプロジェクト | 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 | 28.11.22～29.3.31 (28.11.24～29.3.31) |
| ユネスコスクールESD国際交流プログラム | 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 | 28.12.14～29.3.31 (28.12.3～29.3.31) |
| 大牟田市ユネスコスクールの日制定記念式典 | 大牟田市 | 28.12.22～29.1.14 (29.1.14) |
| 2017年度国際ユース作文コンテスト | 公益財団法人五井平和財団 | 28.12.27～29.11.25 (29.1.31～29.11.25) |
| PIECE OF PEACEーレゴブロックで作った世界遺産展 | PIECE OF PEACE 実行委員会 | 29.1.25～29.5.7 (29.3.18～29.5.7) |
| JAZZ AUDITORIA 2017 | JAZZ AUDITORIA 実行委員会 | 29.2.8～29.4.30 (29.4.28～29.4.30) |

ユネスコスクール新規加盟校一覧

◆ユネスコスクール加盟状況(平成29年2月現在) 加盟校数:969校

(幼稚園20、小学校497、中学校234、中高一貫校等46、高校134、大学5、高等専門学校1、特別支援学校8、その他24)

平成29年2月1日付け承認(40校)

| | |
|-----------------------------|----------|
| 広島大学附属幼稚園 | 広島県東広島市 |
| 白石市立越河小学校 | 宮城県白石市 |
| 藤岡市立小野小学校 | 群馬県藤岡市 |
| 南砺市立福野小学校 | 富山県南砺市 |
| 高山市立朝日小学校 | 岐阜県高山市 |
| 高山市立岩滝小学校 | 岐阜県高山市 |
| 高山市立北小学校 | 岐阜県高山市 |
| 高山市立清見小学校 | 岐阜県高山市 |
| 高山市立久々野小学校 | 岐阜県高山市 |
| 高山市立栃尾小学校 | 岐阜県高山市 |
| 高山市立西小学校 | 岐阜県高山市 |
| 高山市立本郷小学校 | 岐阜県高山市 |
| 高山市立南小学校 | 岐阜県高山市 |
| 高山市立宮小学校 | 岐阜県高山市 |
| 尾張旭市立旭小学校 | 愛知県尾張旭市 |
| 北九州市立藍島小学校 | 福岡県北九州市 |
| 仙台市立郡山中学校 | 宮城県仙台市 |
| 石巻市立牡鹿中学校 | 宮城県石巻市 |
| 安中市立松井田北中学校 | 群馬県安中市 |
| 藤岡市立西中学校 | 群馬県藤岡市 |
| 富山市立榆原中学校 | 富山県富山市 |
| 岐阜市立長森南中学校 | 岐阜県岐阜市 |
| 高山市立朝日中学校 | 岐阜県高山市 |
| 高山市立東山中学校 | 岐阜県高山市 |
| 富士宮市立富士宮第二中学校 | 静岡県富士宮市 |
| 三好市立池田中学校 | 徳島県三好市 |
| 佐野日本大学中等教育学校 | 栃木県佐野市 |
| むくのき学園 (大阪市立啓発小学校・中島中学校) | 大阪府大阪市 |
| 北海道南富良野高等学校 | 北海道空知郡 |
| 宮城県多賀城高等学校 | 宮城県多賀城市 |
| 千葉県立船橋豊富高等学校 | 千葉県船橋市 |
| 長野県長野西高等学校 | 長野県長野市 |
| 岐阜県立大垣北高等学校 | 岐阜県大垣市 |
| 岐阜県立大垣養老高等学校 | 岐阜県養老郡 |
| 岐阜県立各務原高等学校 | 岐阜県各務原市 |
| 長崎県立国見高等学校 | 長崎県雲仙市 |
| 大分県立臼杵高等学校 | 大分県臼杵市 |
| 大分県立三重総合高等学校 | 大分県豊後大野市 |
| 徳島県立ひのみね支援学校 | 徳島県小松島市 |
| 静岡市立久能こども園 | 静岡県静岡市 |



今日よりいいアースへの学び

持続可能な開発のための教育（ESD）

日本ユネスコ国内委員会（文部科学省国際統括官付）

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

TEL: 03-5253-4111（内線 2937）

e-mail: jpnatcom@mext.go.jp

HP: <http://www.mext.go.jp/unesco/index.htm>

facebook: <http://www.facebook.com/jpnatcom>

ESDポータルサイト: <https://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/>

ESD facebook: <https://www.facebook.com/esd.jpnatcom/>

